

構造設計標準仕様										適用は、■印を記入する。									
1. 建築物の構造内容					3. 地盤					5. 鉄筋コンクリート工事					6. 鉄骨工事				
(1) 工事名称 建築場所	武雄市観光交流センター建設(第1期)工事 武雄市武雄町昭和	(2) 工事種別 構造種別	■新築 木造(W) 口補強コンクリートブロック造(CB) 口筋コンクリート造(RC) 口鉄骨筋コンクリート造(SRC) 口プレキャスト筋コンクリート造(PRC)	□増築 口増改築 口改築	(1) 地盤調査資料 (2) 地盤調査計画 (3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある (4) サウンディング試験結果 (基礎・杭の位置を明記すること)	■有(■敷地内 口近隣) 口ボーリング調査 口平板載荷試験 ■サウンディング試験 □無(調査予定 □有 □無) ■静的貫入試験 口標準貫入試験 口水平地盤反力係数の測定 □土質試験 口物理探査 口平板積載試験 □ 測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。 ■構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。 また、打ち込み量が150m ³ をこえる場合は150m ³ ごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を探取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4週間に3本を用いる。 ■ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ送注に際しては、コンクリート上圧送技士または同等以上の技能を有する者が從事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は120分、25℃以上の場合は90分以内とする。	(1) コンクリート ■コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。 ■セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。 ■調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。 ■寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。 ■フレッシュコンクリートの塗化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いてを行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。	(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による ■日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」 ■鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」 □											
(4) 階数 地下階 地上1階 塔屋階	(5) 主要用途 観光案内所、屋内通路	(6) 屋上付属物 □看板 口高架水槽 t □ □煙突 口キューピックル t □	(7) 増築計画 □有() ■無	(8) 付帯工事 □門扉 口擁壁 □ □	(9) 特別な荷重 □エレベーター 人乗 口リフト t □ホイスト t □倉庫積載床用 KN/m ² □受水槽 t	(1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁監修「建築工事標準仕様書」「建築工事施工監理指針」(平成31年版)による。	(10) 深度 土質 Nsw N _d q _a (kN/m ²) 貫入量1m当りの半回転数 0.25 硬質土 68 6.6 70.8 50 100 150 200 250 ▽FL±0 0.50 硬質土 408 29.3 274.8 50 100 150 200 250 0.75 硬質土 376 27.2 255.6 50 100 150 200 250 1.00 硬質土 120 10.0 102.0 50 100 150 200 250 1.25 粘性土 56 5.8 63.6 50 100 150 200 250 1.50 粘性土 188 14.6 142.8 50 100 150 200 250 1.75 粘性土 392 28.3 265.2 50 100 150 200 250 2.00 粘性土 20 4.0 42.0 50 100 150 200 250 2.25 粘性土 28 4.4 46.8 50 100 150 200 250 2.50 粘性土 80 7.0 78.0 50 100 150 200 250 2.75 粘性土 44 5.2 56.4 50 100 150 200 250 3.00 硬質土 416 29.9 279.6 50 100 150 200 250 3.25 粘性土 52 5.6 61.2 50 100 150 200 250 3.50 粘性土 4 3.2 32.4 50 100 150 200 250 3.75 粘性土 0 1.5 15.0 50 100 150 200 250 4.00 粘性土 40 5.0 54.0 50 100 150 200 250 4.25 粘性土 68 6.4 70.8 50 100 150 200 250 4.36 硬質土 418 30.0 280.8 50 100 150 200 250 ○調査地盤 サウンディングデータ NO. 2 ○位置図 ○支持地盤、地層及び深さについてのコメント ○孔内水位 GL— m ○近傍データの調査地盤と設計地盤とは約 m の距離がある ○備考 注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。 ■高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラスト、による処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しない今までよい。 ■高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。 締付け後の検査は、締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。 (6) 防錆塗装 ■防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合部の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5674 1種、2回塗りを標準とする。 ■現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ締止めペイントを使用し2回塗りとする。 (7) 耐火被覆の材料 □												
(1) コンクリート 適用箇所 種類 設計基準強度 F _c = N/mm ² スランプ cm 調合管理強度	(2) コンクリートブロック(CB) □A種 □B種 □C種 厚口100 □120 □150 □190	(3) 鉄筋 異形鉄筋 種類 径 使用箇所 繼手法 ■SD295A D10~D16 基礎梁、土間 D10~D16 ■重ね継手 □SD295B ■SD345 D19 以上 基礎梁 □SD390 高強度せん断強筋 □KSS785 溶接金網 □SR295	(4) 鉄骨 鋼材 種類 使用箇所 現場溶接 備考 ■SN400B 柱 □有 ■無 ■BCR295 柱 □有 ■無 ■STKR400 間柱 □有 ■無 ■SSC400 母屋 □有 ■無	(1) 直接基礎 ■ベタ基礎 □布基礎 □独立基礎 試験場 支持層—磯質土 長期許容地耐力 30kN/m ² 載荷試験 □有 ■無	(2) 杭基礎 支持層— 杭種 材料 施工法 備考 □PRC CPRC (□I種 □II種) □打ち込み □節杭 (□A種 □B種 □C種) □埋込み(セメントミルク工法) □鋼管杭口摩擦杭 鋼材 STK400 □埋込み □SC □場所打ち コンクリート F _c = 5 N/mm ² 設計基準強度の50% セメント量 kg/m ³ 鉄筋 主筋 SD HOPP SD □オールケーシング □抵底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル □ミニアース 第号 □B/H □手掘 □機械掘 年月日	(4) 地業工事 (1) 直接基礎 ■ベタ基礎 □布基礎 □独立基礎 試験場 支持層—磯質土 長期許容地耐力 30kN/m ² 載荷試験 □有 ■無	(2) 杭基礎 支持層— 杭種 材料 施工法 備考 □PRC CPRC (□I種 □II種) □打ち込み □節杭 (□A種 □B種 □C種) □埋込み(セメントミルク工法) □鋼管杭口摩擦杭 鋼材 STK400 □埋込み □SC □場所打ち コンクリート F _c = 5 N/mm ² 設計基準強度の50% セメント量 kg/m ³ 鉄筋 主筋 SD HOPP SD □オールケーシング □抵底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル □ミニアース 第号 □B/H □手掘 □機械掘 年月日	(1) 鉄筋コンクリート工事 ■コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5による。 ■セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。 ■調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。 ■寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。 ■フレッシュコンクリートの塗化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いてを行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。	(1) 鉄骨工事 ■日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」 ■鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」 □										
(6) 屋根、床、壁 垂鉛メッキ折版 H=80 t=0.8 ECP(押出成形セメント板) t=60 OAフロアー H=300+塗ビシート t=2.5 磁器質タイル	使用箇所 屋根 外壁 観光案内床 連絡通路床	(1) 試験場(□有・□無) (□打ち込み・□載荷) 本 杭径 (mm) 設計支持力 (kN) 杭の先端の深さ (杭長) 本数	(2) 有効部材 江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号 一級建築士登録第262723号 江口達美 構造設計一級建築士 第4894号 江口達美	(3) 富永設計 有限会社 富永設計 1級建築士事務所 佐賀県知事登録 第は-884号 曾根建業士 富永恭治 1級建築士登録第93408号	(4) 計画番号 工事名称 武雄市観光交流センター建設(第1期)工事 設計年月日 2021.4 固面番号 S/01														

構造標準図 (1)

1. 一般事項

(1) 構造面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d…異形棒鋼の公称直径又は丸鋼の直径 D…部材の成形 R…直徑
r…半径 C…中心線 I u…部材間の内法距離 h o…部材間の内法高さ
S T…あら筋 H O O P…帯筋 S. H O O P…補助帯筋 d…直徑又は丸鋼

[鉄筋の表示記号]

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記号	•	×	ø	•	○	ø	☒	•

(3) 構造図、本標準図及び建築工事共通仕様書に記載なき場合は、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」(日本建築学会)による。

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径 (D)				使用箇所
		SD295A	SD295B	SD345	SD490	
180°		3d以上	4d以上	5d以上	6d以上	柱・梁の主筋のベース筋
135°						あら筋、帯筋スパイアラ筋
90°						T形及びL形の梁のあら筋
135° 及び 90°						端止め筋

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径 (D)				使用箇所	
		SD295A, SD295B, SD345	SD390, SD490	D16以下	D19~D25	D29~D41	
90° 以下		3d以上	4d以上	—	—	—	あら筋、帯筋スパイアラ筋
		4d以上 (5d以上) <6d以上 >	5d以上 (6d以上) <6d以上 >	6d以上 (6d以上) <6d以上 >	7d以上 (7d以上) <8d以上 >	8d以上 (8d以上) <8d以上 >	その他の鉄筋

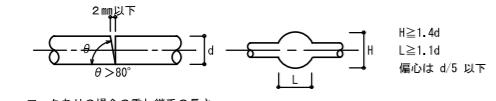
(注1) SD390は使用箇所が「その他の鉄筋」の場合に()内を適用する。

(注2) SD490は使用箇所が「その他の鉄筋」の場合に< >内を適用する。

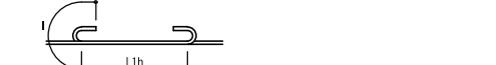
(3) 継手及び定着

1. 端部フックは、定着および継手の長さには含まれない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる材の継手は、組み方の継手長さとする
4. D 2φ以上の場合は、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを越える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



フックありの場合の重ね継手の長さ



3. 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 f_c (N/mm²)	(表2-3)	
		L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295A	21	40d	30d
SD295B	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
	39~45	30d	20d
SD345	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30~36	35d	25d
	39~45	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30~36	40d	30d
	39~45	40d	30d
SD490	24, 27	55d	40d
	30~36	50d	35d
	39~45	45d	35d

4. 投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 f_c (N/mm²)	(表2-6)	
		La	Lb
SD295A	21	15d	15d
SD295B	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	21	20d	20d
	24, 27	15d	15d
	30~36	15d	15d
	39~45	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	15d	15d
	30~36	15d	15d
	39~45	15d	15d
SD490	24, 27	25d	—
	30~36	20d	—
	39~45	20d	—

5. 杣

(地盤力等の水平力を考慮する必要のある場合は、特記による。)

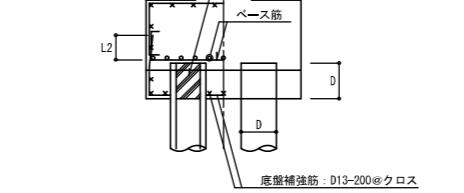
(1) PHC杭、又はPRC杭の全てに補強を行う

a) スタッド溶接又はボルト式の杭頭補強を使用する場合

(財)日本建築センター(BCJ)の技術評定を受けた工法とする。

b) 所定の位置より高く止った場合(杭頭カットオフ)の杭頭補強

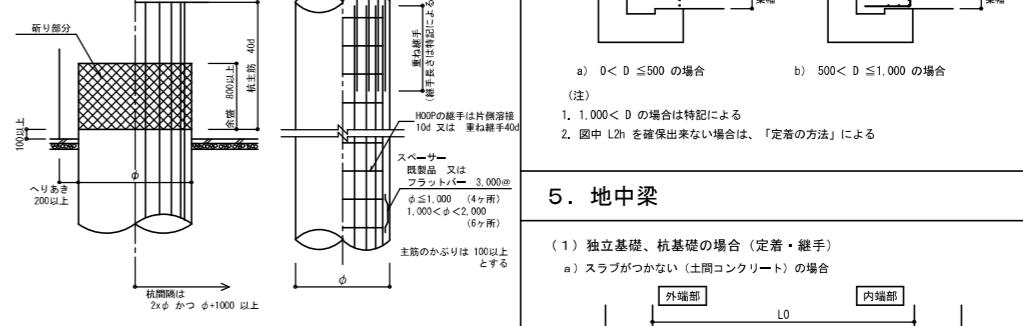
1. 耐震用鉄筋の離手位置は床スラブに做る
但し上筋と下筋を読みかえる
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ②の鉄筋はD13以上
4. 埋戻し土のある場合は40を70とする
5. 図中L2hを確保出来ない場合は、「定着の方法」による



6. 地中梁

(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着・継手)

a) スラブがない(土間コンクリート)の場合

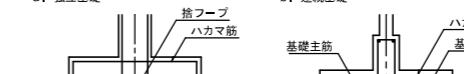


7. 基礎

(1) 直接基礎

注)ハマ筋の有無は、基礎リストによる。

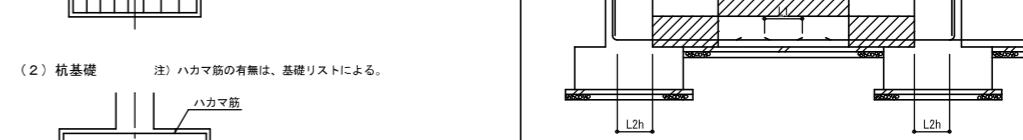
a) 独立基礎



b) 連続基礎

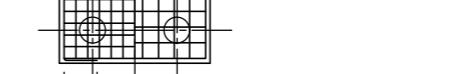
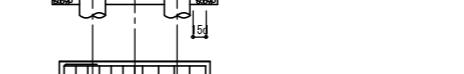


b) スラブがつく(土間スラブ)の場合



(2) 杭基礎

注)ハマ筋の有無は、基礎リストによる。



(注)

1. ■は、継手の好ましい位置を示す

2. 地反力を受ける耐圧筋が付く場合は、(2)による

3. 図中L2hを確保出来ない場合は、「定着の方法」による

4. 基礎の好ましい位置を示す

5. 基礎の好ましい位置を示す

6. 基礎の好ましい位置を示す

7. 基礎の好ましい位置を示す

8. 基礎の好ましい位置を示す

9. 基礎の好ましい位置を示す

10. 基礎の好ましい位置を示す

11. 基礎の好ましい位置を示す

12. 基礎の好ましい位置を示す

13. 基礎の好ましい位置を示す

14. 基礎の好ましい位置を示す

15. 基礎の好ましい位置を示す

16. 基礎の好ましい位置を示す

17. 基礎の好ましい位置を示す

18. 基礎の好ましい位置を示す

19. 基礎の好ましい位置を示す

20. 基礎の好ましい位置を示す

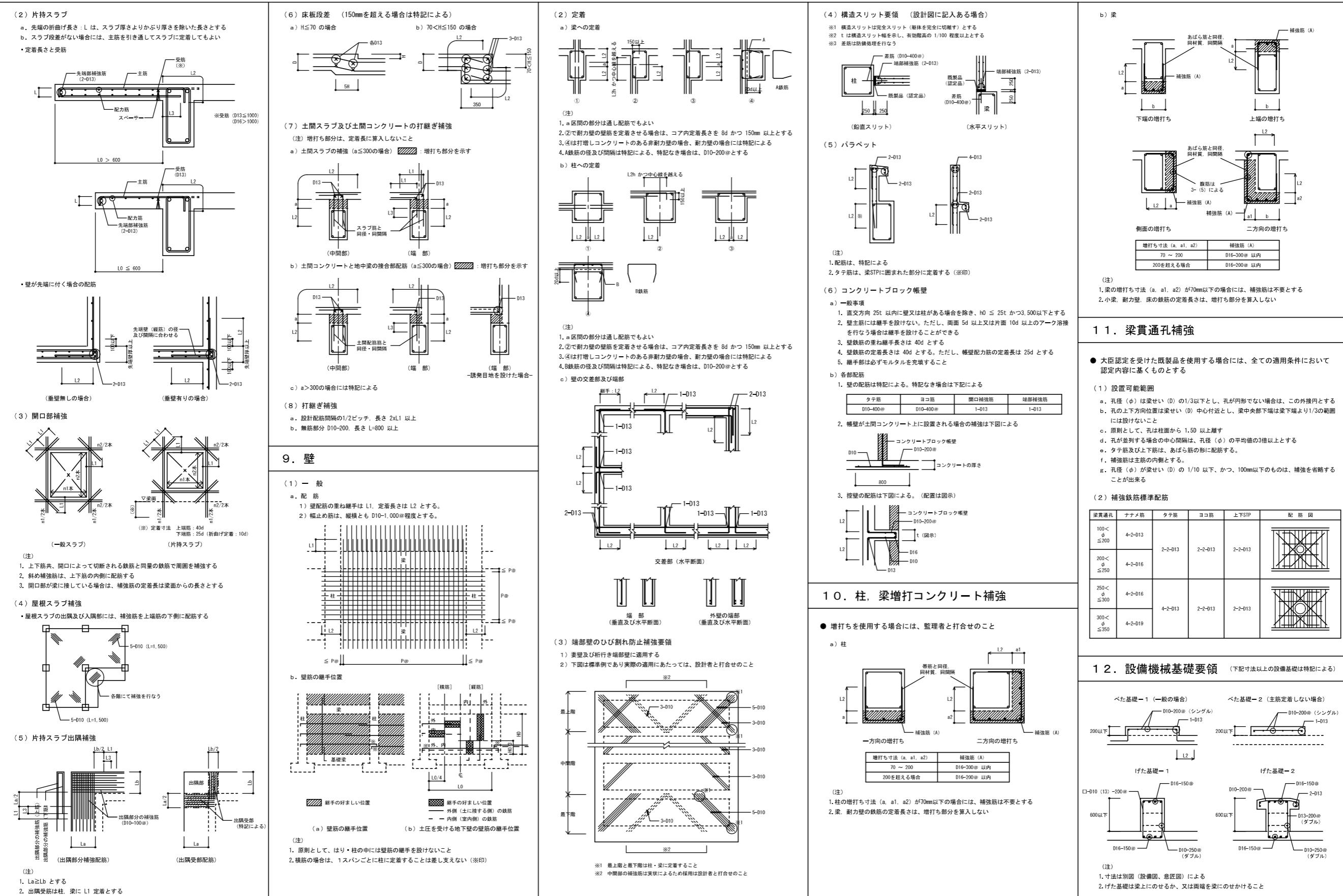
21. 基礎の好ましい位置を示す

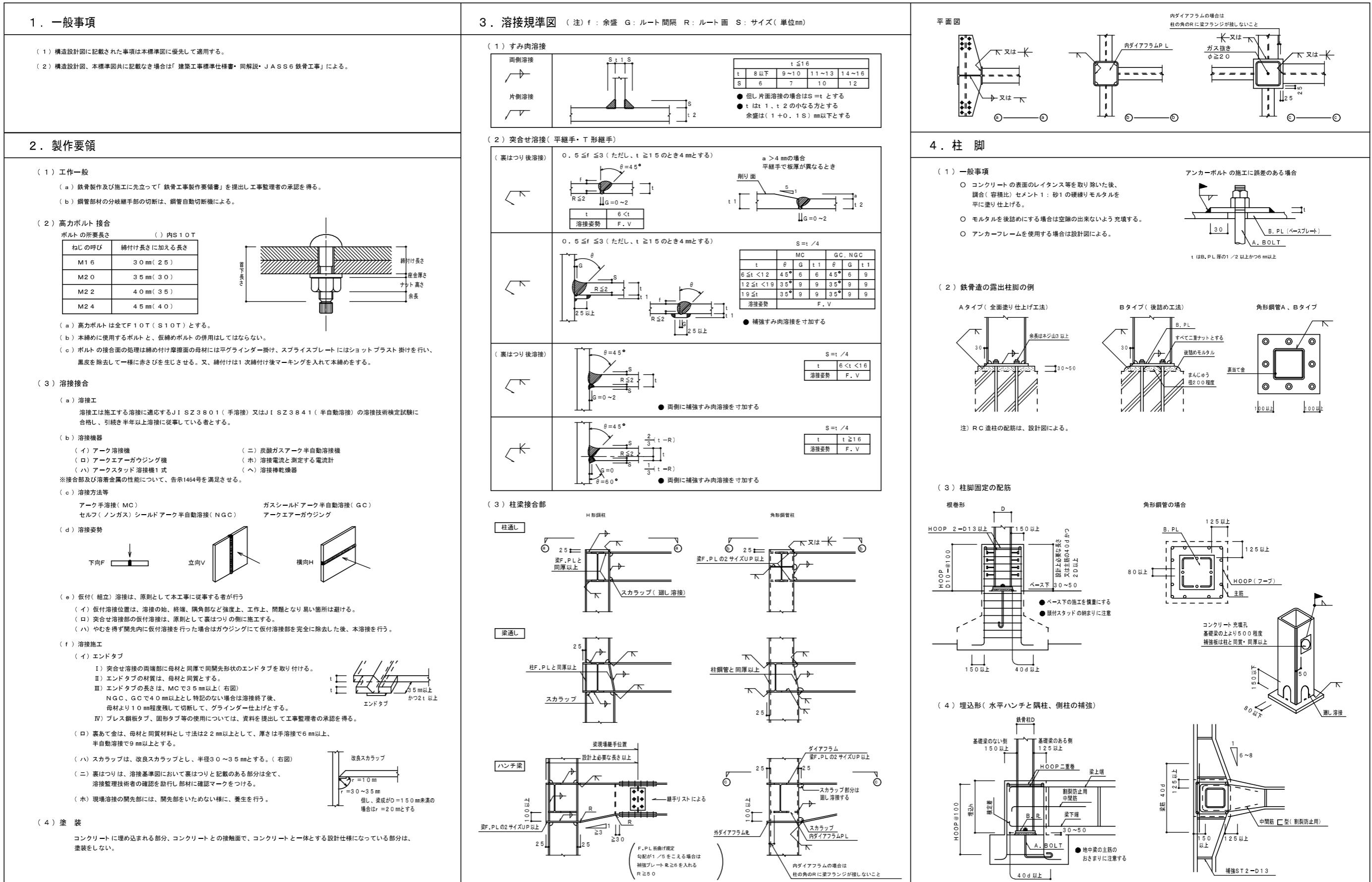
22. 基礎の好ましい位置を示す

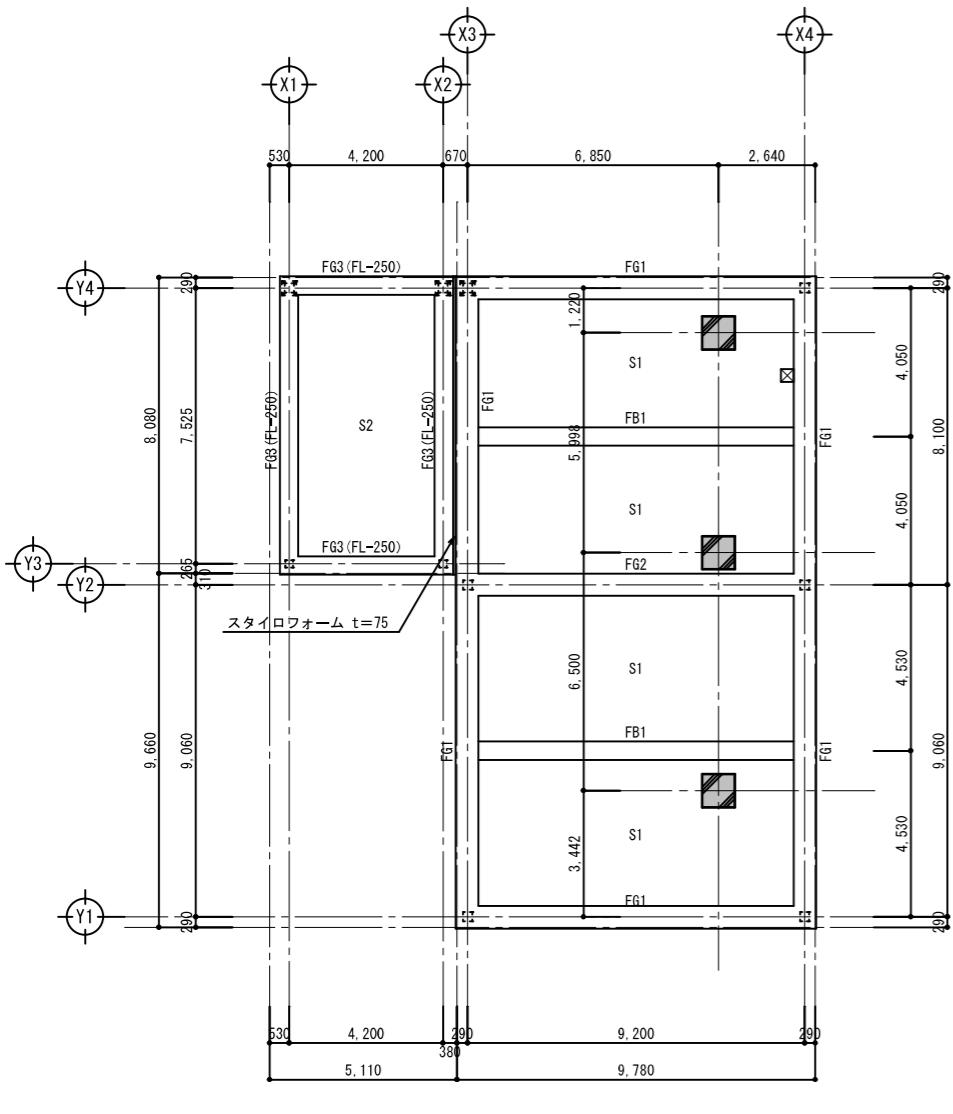
23. 基礎の好ましい位置を示す

24. 基礎の好ましい位置を示す

配筋標準図 (3)







使用材料	
コンクリート	F _c =21 (S _L =15)
鉄筋	SD295A (D16以下) SD345 (D16以上)
鉄骨	SN400B BCR295 STKR400 SSC400
H TB	S10T
アンカーボルト	ABR490

特記事項

- は既存高架橋RC柱を示す。
- 特記なき地中梁天端はコンコース FL-300 とする。
- 長期設計地耐力 $f_e=30 \text{ kN/m}^2$
- ☒は釜場 (350×350×200) を示す。

地中梁リスト 1/30

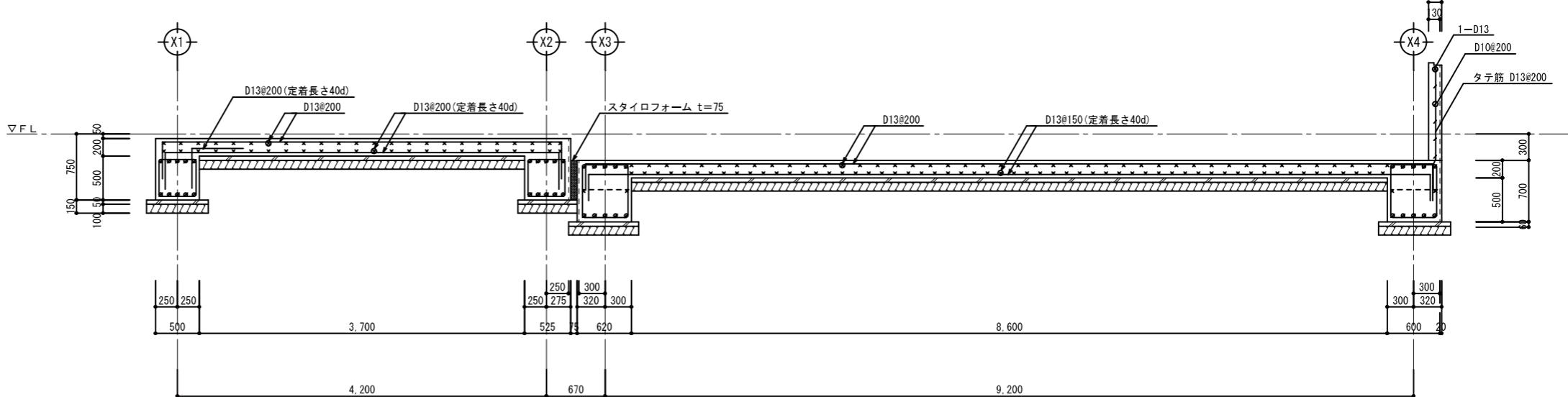
符 号	FG 1	FG 2	FG 3	FB 1
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面				
B × D	600×700	600×700	500×500	500×700
上端筋	5 - D19	6 - D19	5 - D19	5 - D19
下端筋	5 - D19	6 - D19	5 - D19	5 - D19
スター ラップ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹 筋	2-D13	2-D13	-	2-D13

部材リスト表		
※ 特記なき部材はSN400Bとする。 ※ BCR部材に取付くベースプレートはSN490B、ダイヤラムはSN490Cとする。		
符 号	部 材	柱脚・接合部
C 1	□-250×250×9 (BCR295)	B.PL-25×400×400 A.BOLT4-M20 (ABR490) L=400WN
C 2	□-200×200×9 (BCR295)	B.PL-25×350×350 A.BOLT4-M20 (ABR490) L=400WN
C 3	□-250×250×9 (BCR295)	B.PL-25×400×400 A.BOLT4-M20 (ABR490) L=400WN
RG 1	H-294×200×8×12	(F) 2S, PL-9 HTB6-M20 (W) 2S, PL-9 HTB3-M20
RG 2	H-340×250×9×14	(F) 2S, PL-12 HTB6-M22 (W) 2S, PL-9 HTB3-M22
RG 3	H-244×175×7×11	(F) 2S, PL-9 HTB4-M20 (W) 2S, PL-9 HTB2-M20
CG 1	H-148×100×6×9	(F) 1S, PL-16 HTB4-M16 (W) 2S, PL-6 HTB2-M16
P 1	□-100×100×3. 2 (STKR400)	2PL-4, 5 BOLT2-M16
B 1	H-300×150×6. 5×9	G.PL-9 HTB3-M20
B 2	H-200×100×5. 5×8	G.PL-6 HTB2-M20
B 3	H-200×100×5. 5×8	G.PL-6 HTB2-M16
B 4	□-100×100×3. 2 (STKR400)	2PL-4, 5 BOLT2-M16
WB 1	H-250×125×6×9 (横付)	G.PL-6 HTB2-M16
WB 2	□-125×125×3. 2 (STKR400)	2PL-4, 5 BOLT2-M16
WB 3	□-100×100×3. 2 (STKR400)	2PL-4, 5 BOLT2-M16
母 屋	C-100×50×20×2. 3@606 (SSC400)	ネコPL-4, 5 BOLT2-M12 2C@1820
トップライト母屋	□-100×100×3. 2 (STKR400)	ネコPL-4, 5 BOLT2-M12
プレース	M16 (SNR400)	G.PL-6 HTB1-M16

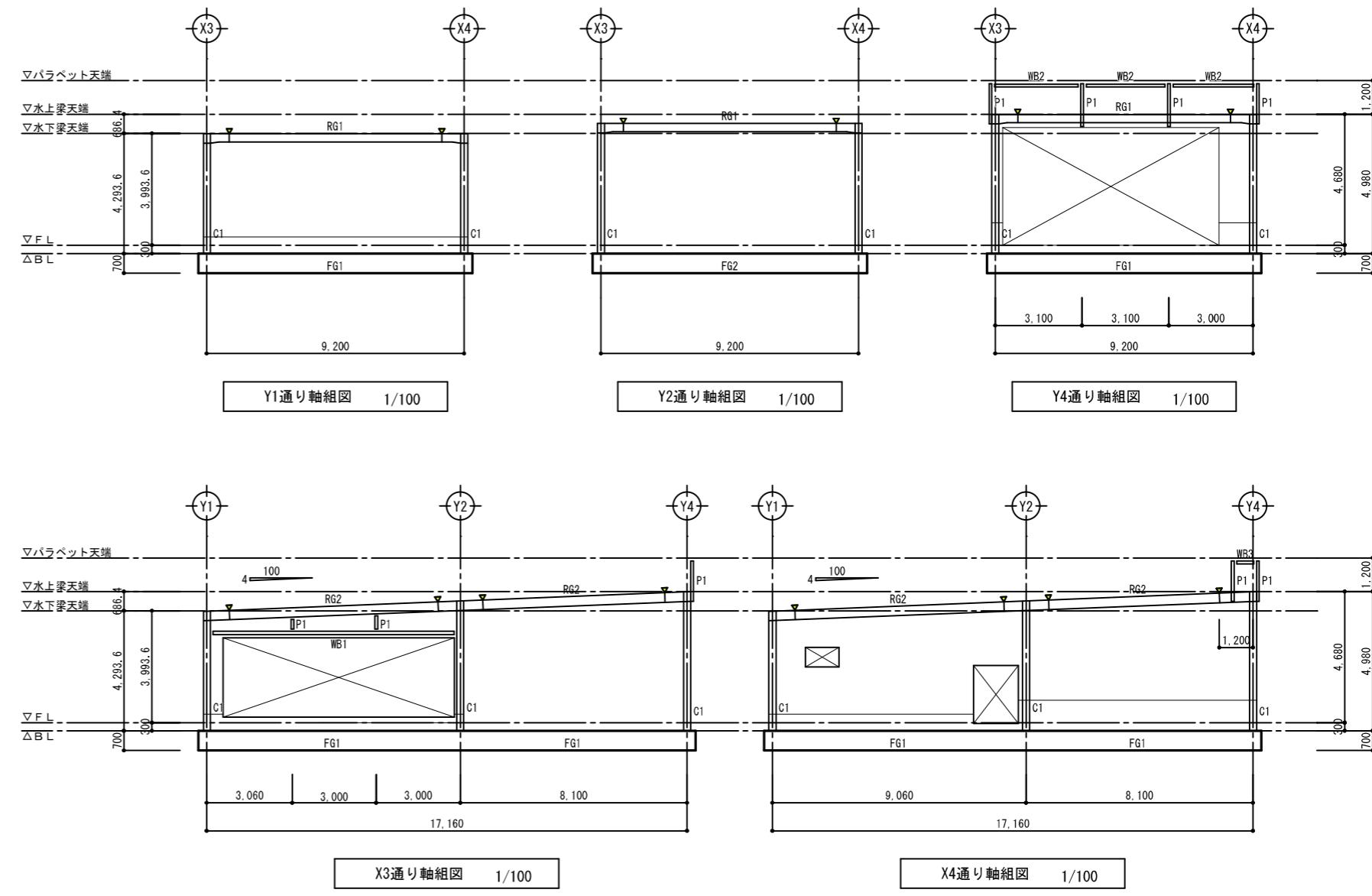
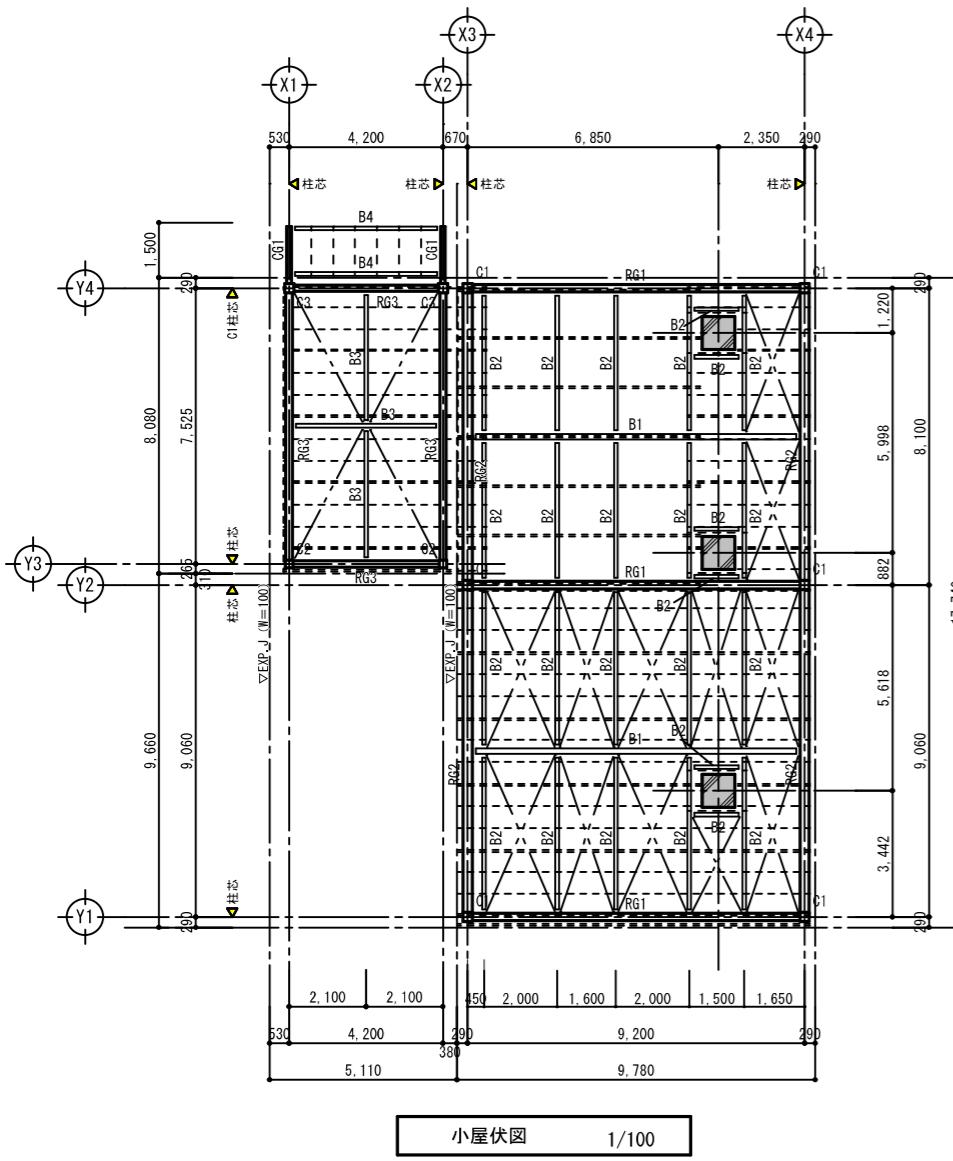
スラブリスト

※ スラブ下捨てコンア50、砕石ア100

符 号	スラブ厚	位 置	短 辺 方 向		長 辺 方 向	
			端 部	中 央	端 部	中 央
S 1	200	上端筋	D13@200	◀	D13@200	◀
		下端筋	D13@150	◀	D13@150	◀
S 2	200	上端筋	D13@200	◀	D13@200	◀
		下端筋	D13@200	◀	D13@200	◀

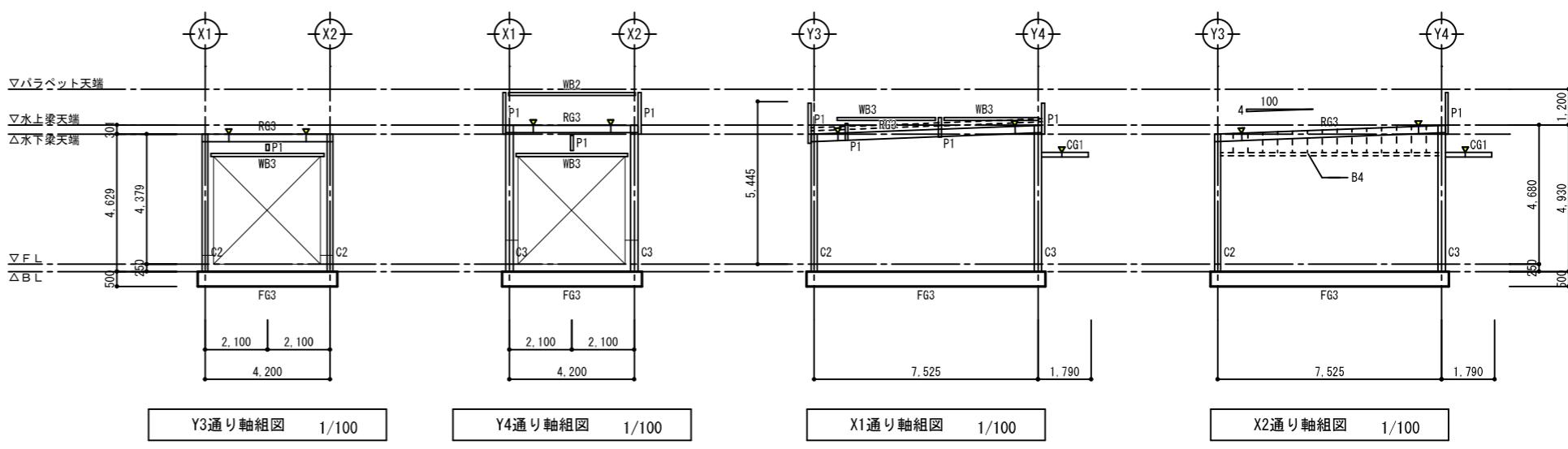


記 事	江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号 一級建築士建設大臣登録第262723号 江口達美 構造設計一級建築士 第4894号 江口達美	有限会社 富永設計 1級建築士事務所 佐賀県知事登録 第に-884号 曾根建業士 富永恭治 1級建築士 建設大臣登録 第93408号	設計番号 工事名称 設計年月日	固番号 S/07
				2021.4 縮尺 1/100, 30(A1) 1/200, 60(A3)

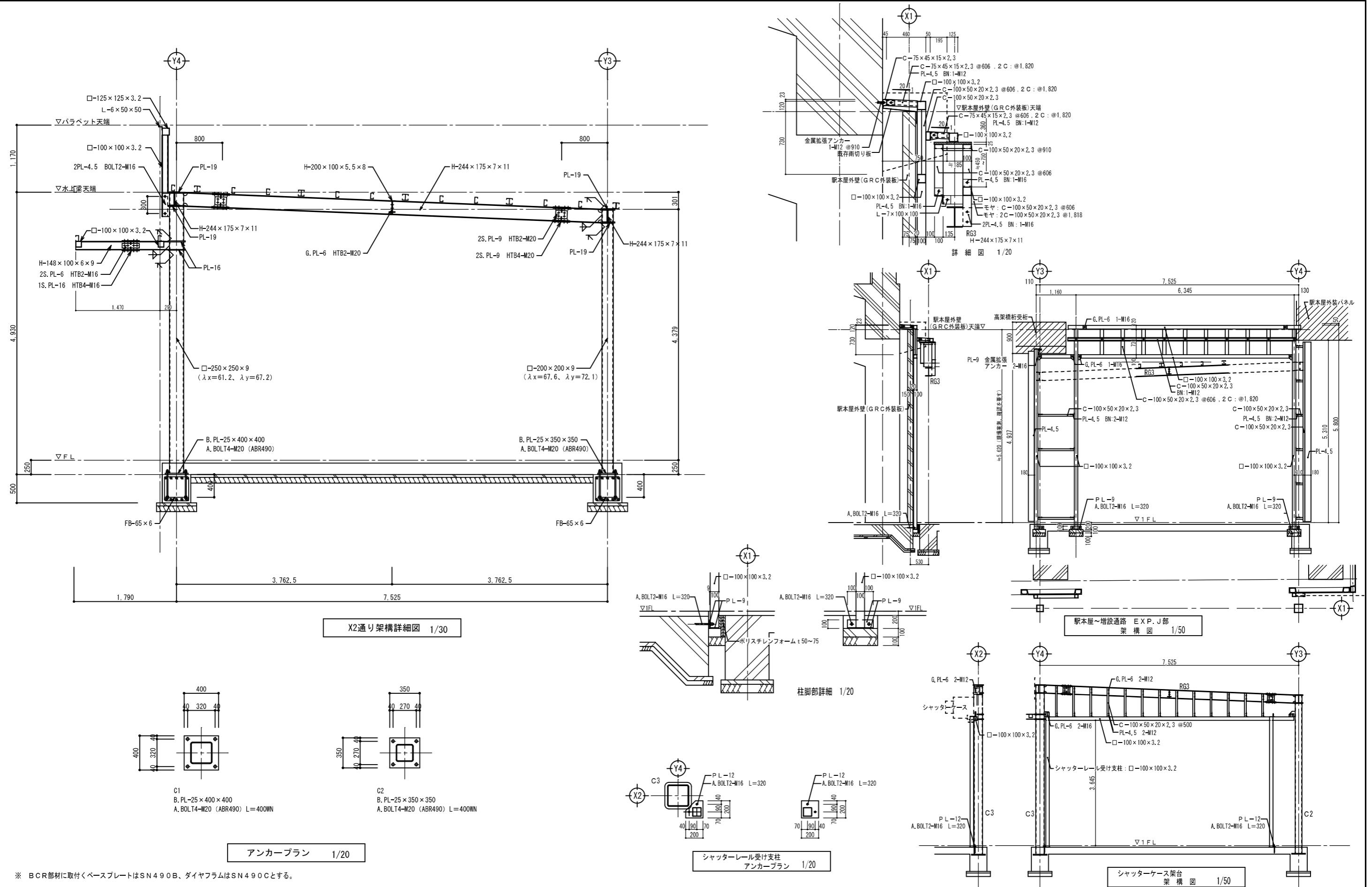


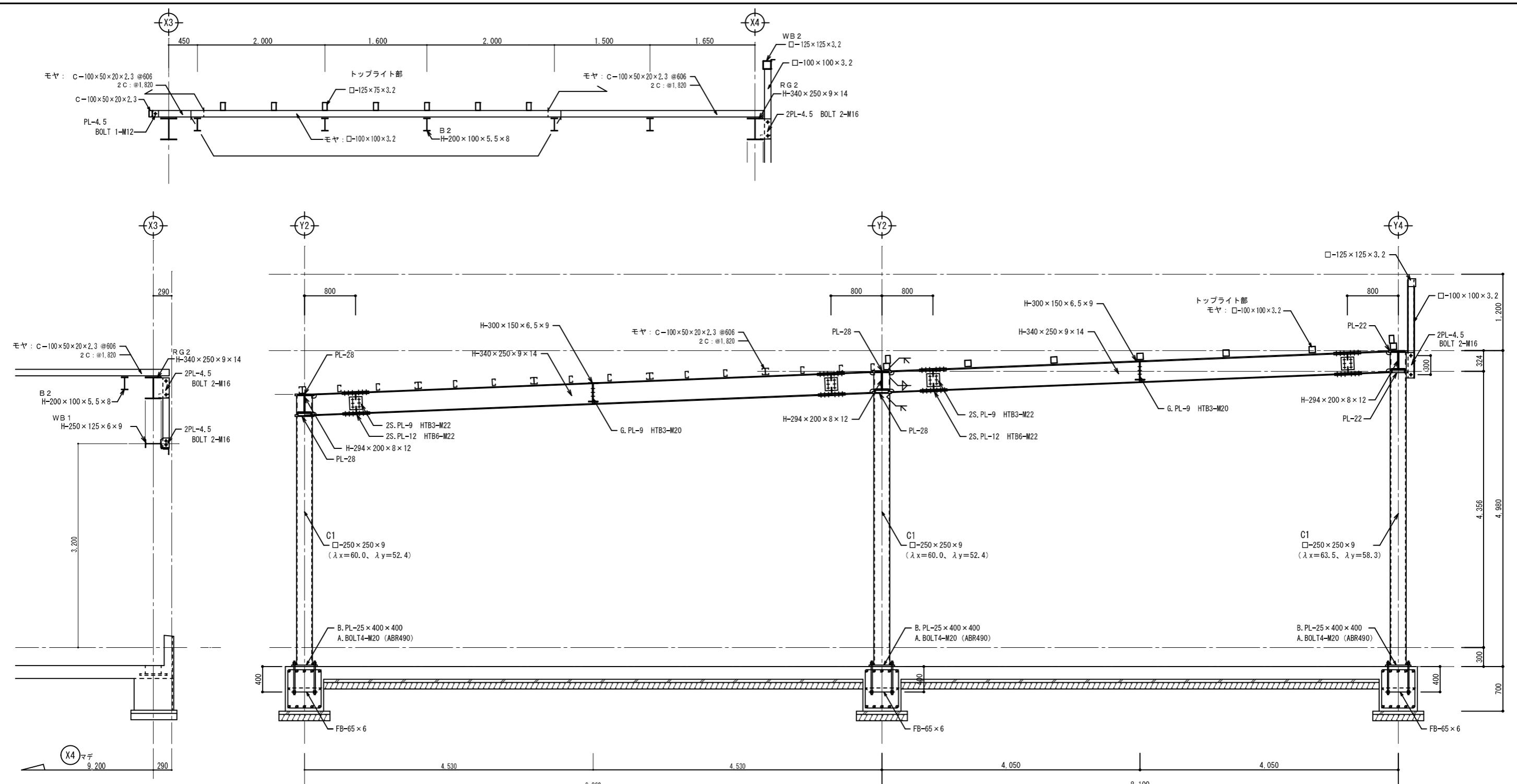
特記事項

- は既存高架橋RC柱を示す。
- ▼は大梁ジョイント位置(柱芯より800)を示す。
- は外壁開口補強を示す。
- 特記なき開口補強はメーカー仕様による

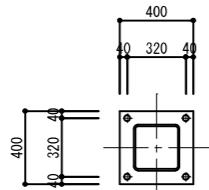


記 事	江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号 一級建築士建設大臣登録第262723号 江口達美 構造設計一級建築士 第4894号 江口達美	有限 会社 TOMINAGA	設計番号	工事名称	設計年月日	回面番号 S / 08
			1級建築士事務所 佐賀県知事登録 第一-884号 曾根建業士 富永恭治 1級建築士 建設大臣登録 第93408号	接印	回面名称 小屋伏図、軸組図	





X3通り架構詳細図 1/30



C1
B. PL-25 × 400 × 400
A. BOLT4-M20 (ABR490) L=400W

アンカープラン 1 : 20

記 事	 有 限 会 社 富 永 設 計 TOMINAGA <small>江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号 一級建築士登録第262723号 江口達美 構造設計一級建築士 第4894号 江口達美</small>	設計番号	工事名称	設計年月日	図面番号
		1級建築士事務所 佐賀県知事登録 第に-884号 管理建築士 富 永 麻 治 1級建築士 登録大臣登録 第93408号	武雄市観光交流センター建設(第1期)工事	2021.4	S/10
		検印	図面名称	鉄骨架構詳細図2	縮尺 1/30、20(A1) 1/60、40(A3)